レスリング・明治杯全日本選抜

健闘　5人がベスト8に

明治杯全日本選抜レスリング選手権が6月15、16日の両日、代々木第2体育館で行われた。専大からは7人が出場し、フリースタイル55kg級で竹田展大主将（経済4・三井高）、中村倫也（商1・花咲徳栄高）、同74kg級で木村政貴（経営3・館林高）、グレコローマンスタイル66kg級で近藤達矢（経営4・八幡浜工高）、同74kg級で池澤俊介（商4・花吹徳栄高）がベスト8となった。

▲　専大半田コーチとの対決で惜敗した竹田主将（左）

あと一歩で表彰台というところで勝ち切れなかった。ただ全日本レベルの選手と戦うことで得るものは大きかったのではないか。竹田主将は「新人戦で後輩たちが成績を残し、部の雰囲気も良い。ここからみんなで頑張っていきたい」と話した。木村元彦コーチも「下級生が実力を発揮したことで、チームの底上げになり、盛り上がっている。練習もいい雰囲気で行えているのでそれを続けていくことが大事になってくる」と語った。

なお、フリー55kg級で優勝した稲葉泰弘さん（平20経営＝警視庁）が世界選手権の切符を手にした。（葛西千瑛・文2＝写真も）

バレーボール・東日本大学選手権

エース負傷、準々決勝で敗退

6月20日から23日まで、日体大健志台キャンパス総合体育館ほかで東日本バレーボール大学選手権が行われた。優勝を目指したバレーボール部だったが準々決勝で敗れ、ベスト8となった。

専大は第2シードで2回戦から登場。初戦は東北学院大を圧倒し3―0のストレート勝ちを収めた。続く東農大との3回戦も3―1と勝利したが、エースの長友優磨主将（商4・都城工高）が負傷。翌日行われた準々決勝・明大戦はエース抜きでの戦いとなった。試合はミドルブロッカーの高橋拓也（経済2・東亜学園高）や長友主将に代わって出場した小川猛（経営1・桐蔭学園高）が活躍し、今大会を制した明大からセットを奪うも、相手の完成度の高いコンビバレーに力及ばず、セットカウント1―3で敗れた。

吉岡達仁監督は「長友を欠いても下級生主体のチームでよくやった。しかし、優勝を狙えただけに悔しい。秋季リーグ戦では必ずリベンジを果たす」と力強く語った。

今大会も好不調の波が激しかった。下級生中心のチームなだけに、他大学と比べて経験の差はあるが、それを超えるパフォーマンスを見せることができればおのずと頂点が見えてくるはずだ。（村上大晃・文3＝写真も）

▲　高さのあるプレーで得点を呼び込む高橋

東日本学生春季新人選手権

雫田、北村、与那覇がV

6月12日から14日まで、駒沢体育館で東日本学生春季新人選手権が行われた。フリースタイル84kg級で与那覇竜太（経営1・浦添工高）、同96kg級で雫田真最（文2・小諸高）、グレコローマンスタイル55kg級で北村侑磨（経済2・玉名工高）の3人が優勝した。フリー55kg級で中村倫也、グレコ84kg級で与那覇が準優勝。フリー66kg級で原田駿（商2・島原高）、グレコ74kg級で近藤雅貴（経営2・八幡浜工高）、同96kg級で雫田が3位に入賞した。

今大会から新ルールが適用され、3分1ピリオド制やトータルポイント制など多くの点が変更に。また、消極的なプレーにはコーションが与えられるようになり、積極的な試合が求められた。

「体力があるので3分1ピリオド制は戦いやすい」と北村。これまでの84kg級から1階級上げて出場した雫田も「新ルールはやりやすく、自分に合っている。今のままでは全日本選手権で通用しないので体を大きくしていきたい」と話した。

与那覇は「専大の組み手を重視するレスリングを展開できた。大学ではリーグ戦優勝とオリンピック出場を夢に頑張っていきたい」と先を見据えた。

（小川史緒梨・文2＝写真も）

▲　新人戦で大活躍した専大勢

漕艇・都カヌースプリント選手権

K―2とK―4で優勝

東京都カヌースプリント選手権が6月2日に宮ヶ瀬湖カヌー場で行われ、漕艇部が出場。K―2で村上弘記（法2・高瀬高）・三浦滉生（経営1・安達高）組が、K―4で村上・三浦・荒木琢磨（商2・谷地高）・酒井凛空（経営2・水橋高）組がそれぞれ優勝した。

福島県の国体予選と日程が重なったため、ベストメンバーで臨めなかったがその中で結果を残した。両部門で優勝した村上は「みんなで話し合って漕ぐ位置を決めた。それぞれが自分の仕事をしっかりやることで良い結果が出たのだと思う。シーズンが始まる前の大会なので今回の結果を踏まえて、本番に臨みたい」と話した。

8、9月に行われる関東学生選手権や全日本学生カヌー選手権でも入賞が期待される。

（葛西）

相撲・東日本学生選手権

ベスト8

東日本学生相撲選手権が6月2日、両国国技館で開催された。専大は予選で東洋大と日体大に連敗するも、駒大に4―1で勝利し、この時点で決勝トーナメント進出と全日本選手権（金沢、十和田両大会）への出場を決めた。決勝トーナメントは再び日体大に敗れ、ベスト8に終わった。

蒲田重勝監督は「力が均衡している駒大に対して、自分の形にもっていく粘り強い相撲をとることができた。上位校に対しても同様の取り組みができれば、順位を上げることができる」と話した。

（林裕太・法3）

準硬式野球

全日本大学選手権3年ぶり出場決定

6月15日から22日まで、全日本大学選手権予選会が法大多摩グラウンドで行われた。初戦で群馬大荒牧に圧勝し、続く明大戦も6―5で勝利。全日本大学選手権の出場を決めた。

明大戦は初回に金子翔馬（法1・新潟明訓高）の本塁打で先制すると、山岡大輝主将（経営4・常総学院高）、渡邉貴一（経営2・専大松戸高）がタイムリーを放ち、追加点を挙げた。9回の同点のピンチも、ホームに突っ込んできたランナーを捕手・植田博貴（商3・広陵高）が冷静にタッチし、守り切った。

山岡主将は「3年ぶりの出場が決まってうれしい。全日本大学選手権では日本一を目指していきたい」と決意を語った。

（真田泰太・文3＝写真も）

▲　明大戦の勝利に沸く

野球・入替戦

拓大に敗れ2部に降格

6月17日から19日まで、神宮球場で東都大学野球春季リーグ戦の1部2部入替戦が行われた。1部6位の専大は1勝2敗で2部1位の拓大に敗れ、1季での2部降格となった。

第1戦は18―7と大勝したものの、第2、3戦をそれぞれ3―8、0―2で連敗した。

高橋薫監督は「投手陣の安定力の無さが出てしまった。秋季リーグ戦に向け、全てが一からのスタートとなる。全体のレベルを上げていきたい」と語った。最短での1部リーグ復帰を願う。

（林裕太・法3）

夏期合宿日程

各部の夏期合宿日程と開催場所は次の通り（7月10日現在）。

◇アーチェリー部
8月26～30日（群馬県利根郡）

◇アイスホッケー部
8月23日～9月8日（北海道札幌市、苫小牧市）

◇アメリカンフットボール部
8月10～16日（神奈川県伊勢原セミナーハウス）

◇剣道部
8月12～19日（兵庫県赤穂市）

◇ゴルフ部
9月2～4日（長野県軽井沢町）

◇柔道部
8月5～10日（長野県須坂市）

◇準硬式野球部
8月6～9日（茨城県神栖市）

◇水泳部
【競泳】
8月7～15日（静岡県三島市）
【水球】
8月8～12日（石川県、富山県）

◇スキー部
8月4～12日（青森県野辺地町）

◇スピードスケート部
8月11～25日（北海道厚真町、帯広市）

◇漕艇部
8月3～7日（石川県小松市）
8月12～26日（同右）
9月2～11日（同右）

◇卓球部
【女子】
8月28～31日（静岡県湖西市）

◇バドミントン部
8月15～22日（新潟県佐渡市）

◇フェンシング部
8月21～30日（鹿児島県姶良郡）

◇野球部
8月9～16日（大阪府、愛知県、兵庫県）

◇ラグビー部
8月2～12日（北海道札幌市定山渓）
8月15～25日（長野県上田市菅平高原）

◇陸上競技部
8月10～21日（北海道野付郡）
8月22日～9月2日（北海道中標津郡）
9月10～20日（長野県上田市菅平高原）

◇レスリング部
8月4～18日（東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター）

◇ローラースケート部
8月4～10日（長野県長野市）

記録コーナー

◇馬術部
▽全日本ヤング総合馬術大会（5月31日～6月2日＝JRA馬事公苑）【トレーニング競技】的場唯（経営4・聖隷クリストファー高）・ゴールドスター号＝5位

◇陸上競技部
▽全日本大学駅伝対校選手権・関東学生陸上競技連盟推薦校選考会（6月30日＝国立競技場）13位

監督交代

◇空手部
横山　良光氏